

# 奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター（奈良県保健研究センター内） *Nara IDSC*

## 今週の概要

- 第37週の感染症情報
- 月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（8月月報）
- 流行感染症情報：手足口病

## 第37週の感染症情報（9月9日(月)～9月15日(日)）

奈良県および医療圏別発生状況（奈良県上位5疾患）（5週間からの動向）

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	2.00	→	→	→	→
2	手足口病	1.85	→～↓	→～↓	↓	↓
3	ヘルパンギーナ	0.74	→～↓	→～↓	↓	↓
4	A群溶連菌咽頭炎	0.59	↑	↑↑	↑↑	→
4	水痘	0.59	↑	→～↑	↑	→～↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

**県北部地区概況** 報告数は123例で、前週報告数から変わらず。上位5疾患は、①手足口病、②感染性胃腸炎、③ヘルパンギーナ、④水痘、⑤A群溶連菌咽頭炎の順。手足口病の定点当たりの報告数は2.65（奈良市保健所管内；4.71、郡山保健所管内；1.20）と、警報レベルを依然継続中。ヘルパンギーナの報告数（10→15例）は、再度増加。水痘の報告数（7→12例）も、増加。A群溶連菌咽頭炎の報告数（2→8例）も、増加の兆し。感染性胃腸炎の報告数（29例）は、ほぼ横ばい。手足口病の報告数（58→62→45例）は、減少傾向にあり。奈良市保健所および郡山保健所両管内眼科定点と基幹定点からの報告は、すべてなかった。（村井 記）

**県中部地区概況** 報告数は100例で、前週報告の90例から増加。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②手足口病、③RSウイルス感染症、④A群溶連菌咽頭炎、⑤ヘルパンギーナの順。感染性胃腸炎が前週に引き続き第1位。RSウイルス感染症の報告数（2→12例）は、増加の兆し。A群溶連菌咽頭炎の報告数（3→11例）も、増加の兆し。手足口病の報告数（18例）は、第33週より続けて減少。ヘルパンギーナの報告数（9例）は、3週連続での減少。感染性胃腸炎の報告数（35例）は、やや減少。桜井保健所および葛城保健所両管内眼科定点から、流行性角結膜炎の報告が1例ずつ計2例あったが、両管内基幹定点からの報告は共になかった。（村井 記）

**県南部地区概況** 報告数（36→37 週）は 9→13 例と推移。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎（6→5 例）、②流行性角結膜炎【眼科定点】（0→2 例）、③RS ウイルス感染症（0→1 例）、③咽頭結膜熱（0→1 例）、③A 群溶連菌咽頭炎（0→1 例）、③水痘（1→1 例）、③突発性発疹（0→1 例）、③ヘルパンギーナ（0→1 例）であった。

（柳生 記）

## 【月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（8月月報）】

平成25年8月に、奈良県内の定点医療機関より保健所に届出のあった月報告対象感染症の報告数は以下のとおりです。

### ・性感染症患者数（人）

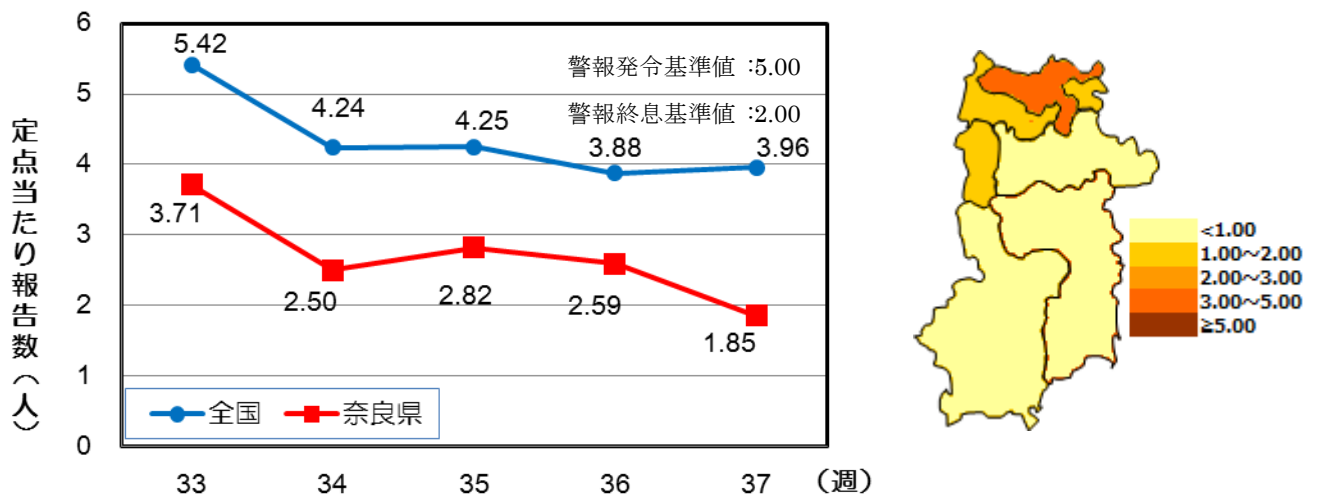
疾病名\報告月	8月		前月（7月）	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
性器クラミジア感染症	4	0.44	16	1.78
性器ヘルペスウイルス感染症	2	0.22	3	0.33
尖圭コンジローマ	0	0	0	0
淋菌感染症	2	0.22	3	0.33

### ・薬剤耐性菌感染症患者数（人）

疾病名\報告月	8月		前月（7月）	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	29	4.83	42	7
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	9	1.50	13	2.17
薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0.17	0	0
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0

## 《流行感染症情報：手足口病》

第37週の奈良県全体としての定点あたり報告数は1.85（報告数63）となり警報終息基準値である2.00を下回ったため、奈良県全体としての警報は解除となりました。しかし、奈良市保健所では、警報は解除となっていました。定点あたり報告数は4.71（報告数33）と増加し、ここ数週間は増減を繰り返しているため、今後の発生動向は依然として、注視する必要があります。



## 手足口病に関するQ&A（厚生労働省）

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/hfmd.html>

予防対策についても記載があります（Q4）



感染症情報センターホームページ <http://www.pref.nara.jp/27874.htm>